

放課後等デイサービス びーとる

①5領域（健康・生活）とのつながりを明確化した支援内容

項目	ねらい	
健康・生活	① 健康状態の維持・改善 ② 生活のリズムや生活習慣の形成 ③ 基本的な生活スキルの獲得	
支援目標	支援内容	プログラム例
健康状態の把握	受入時に体調観察をおこなう。利用中においては、小さな変化やサインを見落とさず、心身の異変把を早期に把握できるようきめ細かな様子観察をおこなう。 また、口頭での健康状態の確認で、お子さま自身の健康について意識付けをおこない、健康な心身を育て能動的に健康で安全な生活を作り出す事を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・来園時の様子観察 ・口頭での様子確認 ・調理実習や昼食（休校日）時の食育 ・おやつ作り（食育） ・摂食時の姿勢の調整 ・配膳の手伝い ・トイレトレーニング ・清掃、整理整頓 ・創作活動（季節感を感じ取れる内容で） ・読み聞かせ（季節感を感じ取れる内容で） ・散歩（季節感、体力作り、生活リズム） ・ボーリング、ボール遊び、プレイバルーン、ハンモック、ボルダリング、滑り台（体を動かす） ・時間にあわせた行動の切り替え ・構造化を意識したイラスト等の掲示、提示をおこなう。
健康の増進	健康な生活の基本となる食を営む力の育成を支援する。また楽しく食事できるよう、口腔内機能・感覚に配慮しながら、咀嚼・嚥下、摂食時の姿勢保持、自助具等に関する支援をおこなう。	
リハビリテーションの実施	日常生活や社会生活を営むために、それぞれの子どもに対して適した身体的、精神的、社会的訓練をおこなう。	
基本生活スキルの獲得	個別支援の中で、一人ひとりの課題を抽出しADLの向上に取り組む時間を作る。 食事、衣類の脱着、排せつ等、生活に必要な基本技能を獲得できるよう支援をおこなう。 活動時間の切り替わりに、身の回りの整理整頓の習慣をつける。要るものと要らないものを仕分け、効率よく必要なものを必要な時に必要なだけ使うことができるよう支援をおこなう。	
構造化により生活環境を整える	個別活動および集団活動でおこなう、さまざまな活動の中で時間にあわせて行動の切り替えができるよう学習し、構造化を意識した指示や掲示物等で環境を整える支援を行う。 また、障がい特性や発達状態に合わせ、タイミングや状況を本人が理解しやすいよう「見える化」するなど分かりやすく構造化する。	

放課後等デイサービス びーとる

②5領域（運動・感覚）とのつながりを明確化した支援内容

項目	ねらい	
運動・感覚	① 姿勢と運動・動作の向上 ② 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ③ 保有する感覚の総合的な活用	
支援目標	支援内容	プログラム例
姿勢と運動・動作の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や、運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化を図る。 正しい姿勢の維持は大切ですが身体の発達状態によって個人差があるため遊びの中で体幹を使う場面を増やしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操やダンス ・手押し相撲、つなひき、手押し車、座りながらキャッチボール等（体幹） ・ケンケンパの運動でリズム感覚 ・なわとび遊びでタイミングの感覚やバランス感覚 ・ボール遊びで体の動かし方や強弱の力感覚、方向感覚 ・視覚や聴覚、触覚を刺激するようなゲームやクイズ ・読み聞かせ（視覚や感覚からの刺激） ・手遊び歌（体を動かす） ・散歩（五感の刺激、運動） ・創作活動（感触、手先を動かす） ・おやつ作り（感覚、匂い） ・環境設定 ・スヌーズレン室の利用
姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢保持や運動・動作が困難な場合は、様々な補助用具等の手段を活用してこれらを行えるように支援する。	
身体の移動能力の向上	自力での身体移動や歩行、歩行器や車イスによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援をおこなう。	
保有する感覚の活用	保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊具や器具を使った遊びなどや、その他さまざまな運動を取り入れ、保有する感覚を総合的に活用できるようにしていく。 屋内・屋外・広さ・安全の確保などの状況に合わせて道具や内容を考慮して楽しく活動できるよう配慮する。	
感覚の補助及び代行手段の活用	メガネや補聴器などの各種の補助機器を必要とするお子さまには、安全に活用し周りの状況を把握できるよう支援する。	
感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応	感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえた環境調整等の支援をおこなう。	

放課後等デイサービス びーとる

③5領域（認知・行動）とのつながりを明確化した支援内容

項目	ねらい	
認知・行動	① 認知の発達と行動の習得 ② 空間・時間・数等の概念形成の習得 ③ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	
支援目標	支援内容	プログラム例
感覚や認知の活用	障がい特性に応じた、視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用して必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵や文字、道具を用いて認知機能の発達を促す支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろみ、ブロック、色つみき等を使った創作活動 ・ 読み聞かせ（季節感、視覚や感覚からの刺激） ・ 手遊び歌（体の動かし方、音を楽しむ） ・ すごろくゲーム（数の認識、人との関わり）
知覚から行動への認知過程の発達	集団活動やグループ活動支援の中で、活動の内容を理解しやすいよう絵カードやルール表を用いて「見える化」するなど、必要なメッセージをお子さま自ら選択し、行動につなげられるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジョントレーニング ・ おやつ作り（感触、匂い、数量の予測） ・ 粘土、スライムによる物質の変化と感覚の認知形成
認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間の概念の形成を図ることによって、それが認知や行動に活用できるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロック遊びによる空間把握の認知形成 ・ 天気、気温、日付の把握と確認 ・ 季節の変化を感じて、関心を持ってもらえるための外出やイベントの実施
数量、大小、色等の習得	折り紙やつみき等をつかい、数量の予測、大小の選択、色の認知など作品完成までに必要な準備や流れを理解して、次の行動への手掛かりとできるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の時間帯別活動を示すタイムテーブルの表示（見える化）と時間の認知形成
認知の偏りへの対応	認知の特性を踏まえ、絵カードやスケジュール表などを用いて入ってくる情報を適切に処理し、お子さまが自分で選択して安全に正しく行動できるよう支援し、認知の偏りなどひとりひとりの特性に配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良い行動を増やすためのアプローチ（トークンエコノミー） ・ スヌーズレン室の利用
行動障害への予防及び対応	感覚や認知のかたより、コミュニケーションの困難から生まれる行動障害の予防、および適切な行動ができるよう支援をおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場面での適切な対応、態度。（声のボリューム、アンガーマネジメント）

放課後等デイサービス びーとる

④5領域（言語・コミュニケーション）とのつながりを明確化した支援内容

項目	ねらい	
言語 コミュニケーション	① 言語の形成と活用 ② 言語の受容及び表出 ③ コミュニケーションの基礎的能力の向上 ④ コミュニケーション手段の選択と活用空間・時間、数等の概念形成の習得	
支援目標	支援内容	プログラム例
言語の形成と活用	具体的な事象や体験を言葉で表すことによって、体系的な言語の習得や自発的な発声を促す支援をおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> • 伝言ゲーム • 早口ことば • ジェスチャーゲーム • 読み聞かせ（言葉にふれる） • 創作活動（話を聞く、意思を伝える） • 散歩（地域との交流） • 場面を想定してのロールプレイング • S S T • はじまりの会で今日の気分・気持ちを発表 • 終わりの会で活動振り返りと気持ちを発表 • 個別または小集団での障害の特性に応じた読み書き • ルールなどを絵や絵カードを使って視覚化
受容言語と表出言語の支援	話し言葉や文字・記号を用いて、自分の考えを伝えること（表出言語）や、人の意見を聞き入れて相手の意図を理解する（受容言語）など、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。	
人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	集団活動の中で伝言ゲームや早口ことばなどの言葉遊びを用いたゲームをおこなう。これにより具体的な体験や言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。様々な活動や体験を通して意見の相違や譲り合い、折り合いをつけることで社会性と友達をつくることを学びます。	
指差し、身振り、サイン等の活用	言葉以外の方法を用いて意思の伝達ができるよう支援をおこなう。	
読み書き能力の向上のための支援	文字カードやカルタなどの教材、知育玩具を用いてひとりひとりの能力に合った読む能力の向上を目指す支援をおこなう。 文字の形比べや一画線を入れて文字を完成させる教材を使って、書く能力の向上のための支援をおこなう。	
コミュニケーション機器（道具）の活用	集団活動やグループ活動の中で、ジェスチャーゲームや伝言ゲームなどの遊びを通して意思の伝達方法の獲得や、それが円滑にできるよう支援をおこなう。	
手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用	多様なコミュニケーション手段を活用することによって環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。	

放課後等デイサービス びーとる

⑤5領域（人間関係・社会性）とのつながりを明確化した支援内容

項目	ねらい	
人間関係 社会性	① 他者との関わり（人間関係）の形成 ② 自己の理解と行動の調整 ③ 仲間づくりと集団への参加	
支援目標	支援内容	プログラム例
アタッチメントの形成 （愛着行動）	話す、聞く、触れるなどのコミュニケーションの時間をとる。安定した人との関係を作るために、身近にいる人との関係を築き、信頼関係を築くための支援をおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> • 遊びの中での身につけるスキル （物の貸し借り、拒否、共感） • 手遊び歌（スキンシップ、力の強弱、スピード調整） • 散歩（地域の人や環境にふれる） • 創作活動（ものづくりの楽しさ、達成感、意思の伝達） • おやつ作り（手順を守る、達成感、計画性） • 様々な場面での適切な対応、態度。 （声のボリューム、アンガーマネジメント） • SST • 買物実習 • 外出支援 • 施設外活動（イベント参加） • ボランティア活動への参加 • 職業体験
模倣行動の支援	遊びや活動の中で他者の動きを模倣することから、社会性や対人関係がうまく築くことができるよう支援する。	
感覚運動遊びから象徴遊びへの支援	感覚運動機能を使った遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通じて社会性を育てる支援をする。	
一人遊びから共同遊びへの支援	1人遊びの状態から並行遊びをおこない、支援者が介入しておこなう連合遊び、役割やルールが発生する共同遊びへと進めていくことで、社会性を育てる支援をする。	
自己の理解とコントロールのための支援	職員は利用者各々の特性を理解し、ひとりひとりに合わせた声掛け支援、行動支援をおこなう。 できる事とできない事など、ひとりひとりの行動を理解し、感情のコントロールができるように支援する。	
集団への参加への支援	個別活動からグループ活動へ順に進め、ひとりひとりの状況や状態に合わせて集団活動への参加を促す。 また、受け入れる側（集団）の児童生徒に対して、相手の気持ちや情緒を理解するための話し合いや声掛け支援を行い、安心して集団へ参加できるよう、また参加する方法の習得を支援する。 ロールプレイングやSSTを用いて、相手の気持ちの理解や自己表現ができるよう支援をおこなう。	